



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第49巻第7号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第49巻第7号). 泌尿器科紀要 2003, 49(7): 444-444

ISSUE DATE:

2003-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114992>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

今朝の某新聞に「[医療事故] ミスを繰り返す医師には厳罰を」という社説が出ていた。ミスを繰り返しても医師免許が剥奪されない「理不尽」がまかりとおるのは、医道審議会が十分に機能していないためであり、「医師会や医学会の自浄能力も問われている。問題のある医師を排除したり、再教育したりすることは、専門家集団の本来の役割であるべきだが、これまでは仲間内のかばい合い意識が根強かった。」と断じていた。

いっぽう、先日、尿路悪性腫瘍研究会での特別講演は「失敗学のすすめ」であった。「ヒトは失敗するものだから、失敗から出発する逆転の発想で成功に結びつけよ」というような内容だったと解釈している。ヒトでしかその有効性を検証できない医学 医療は、本来失敗を糧として発達してきた実学である。しかし、今の医療では失敗は許されない。治って当たり前、結果が全ての世界となりつつある。そのような状況の中で、我々が失敗を生かしミスを繰り返さない方法とはというと、一度の失敗をどれだけの真剣さを持ってフィードバック出来るかということに尽きる。その意味では某新聞社の社説には賛成である。

しかし、今の審議システムを厳しくするだけで問題は解決するのだろうか。医療従事者が事故を起こすと、警察への連絡はどうするという話に必ずなる。ヒトを救う立場から一転して殺人者扱いである。ミスを繰り返す劣悪医師を明らかにする意味でも、失敗に学ぶ意味でも、医療事故にあたっては警察ではない第三者機関における初期審議を充実すべきだと思う。忙しい警察官にはもっと他にすべき仕事があろう。

時々当科でも術後の合併症で緊急手術をせざるをえない場合がある。私にとっては全くおもしろくない状況であるが、どこから聞きつけたのかそれが深夜であっても色々な医師が手術室に集まってくる。患者さんに対しては不謹慎な話かもしれないが、皆、目を輝かせて合併症の原因、その対処法を見極める。閉腹の段になると主治医以外は誰もいなくなっているが、このように他人の失敗からも多くを学ぼうとする問題意識の高い医師を養成したいものである。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第49巻 第7号 2003年7月25日 印刷 2003年7月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
